



# 木林木の譚

二十一世紀の森づくりシリーズ 90

## 六月の木の花

ネムノキ。このネムノキは2度目の紹介ですので、他の木もあわせて紹介いたします。  
ネムは、改めて考えてみますと非常に変わった花です。牡丹刷毛のように見えるのはおしべ



筆者が小学生の頃、福岡市動物園の入り口横から浄水場に登る、長い階段の上に向かかって左手の斜面地に大きなネムノキがあつたことを覚えています。それが、この木との最初の出会いでした。マメ科の植物で、オジギソ

ウを大きくしたようなものです。オジギソウのようにお辞儀はしません、夕方になると葉を開じるので眠りを連想させます。花は、樹形の外周の枝の先端に複数付け、ボーツとしたピンクの花が浮かぶように咲いています。このため、なんと穏やかで優しい花であるかと思えます。香りも、ぴつたりとして甘い香りを漂わせています。

前回は紹介しましたが、「象潟や雨に西施が合歓の花」芭蕉の句以上の表現はありません。秋田県にある、象潟へは行ったことはありませんが、くつきりとその光景が浮かぶようです。

なお、西施(せいし)とは三国時代の傾国の絶世の美女。その合歓の花に美女を重ねた芭蕉の想像力は、時代を超えて支持されています。

(自然教育林事務局長)

珍しい木・想い出の木不思議な木・植物好き・花好きなどにまつわるおもしろい話を教えてください。

連絡先 歴史民俗資料館  
☎932・6312

# 楽しい考古学

古墳時代(3世紀後半〜7世紀)

須恵の古墳  
古墳とは、古墳時代に作られた盛り土のある墓で、町内に65基ありました。須恵の古墳時代の景観は、現在と大きく異なっています。山や丘陵は削られ、谷は埋められています。その中で多くの古墳が破壊されましたが、一部の古墳は発掘調査を行なっています。



須恵町の古墳分布図(一部抜粋)

フシガ浦古墳(4)、フシガ浦南古墳(5)、オ木古墳(6)、ヨムギ古墳(33)、乙植木古墳(7〜14)の計12基です。これらの古墳は5〜6世紀の古墳です。出土した遺物は、現在歴史民俗資料館で保管しています。

町内に現存する古墳は20基ほどです。道林寺古墳(41)、尾黒古墳群(22〜31)などが現在残っています。乙植木の丘陵では古墳と横穴墓が町指定の「乙植木山城戸史跡」(16〜19)として保存されています。

これらの古墳の作られた立地から考えると、小高い丘陵の上を集落を見下ろすような形で、点々と古墳が並ぶという風景が想像できます。

(啓)

## 町内小中学校での

### 聴講生を募集します

須恵町教育委員会では、生涯学習の一環として町内の小中学校での聴講生を募集します。これは、各学校で実施されている授業や行事などの教育

音楽の授業風景



活動の場を、広く町民のみならず、皆さんに開き、聴講生と児童生徒とがふれあい、共生・協力しながら、地域に開かれた新しい学校のあり方を求めていくことを目的とするものです。  
「あの時、英語を勉強しとつたら」、「音楽の勉強をもつて一度してみたい」、「もうと国語や社会科を勉強したい」など、小中学校で授業を行なっている、すべての科目が聴講できます。応募資格は、町内に在住する成人者で、この聴講制度の趣旨に基づく学習意欲のある人はだれでも応募できます。応募願書は、アザレアホール窓口で配布します(願書締切りは8月22日(月)です)。応募締め切り後に説

## 福岡県有機農業研究会が25周年

福岡県有機農業研究会25周年記念シンポジウム「だれのための、なんのための有機農業か」(粕屋から世界へ)(福岡県有機農業研究会・須恵町主催)が、5月15日(日)にアザレアホールで開催されました。

これは、近年、農地や農家の減少とBSEや鳥インフルエンザ問題など、「農」を取り巻く環境は決して楽観できない状況となっています。そんな中、生産者と消費者の信頼関係を、もう一度結びなおそ

明会と面接を行います。定員以上の応募者がある場合は抽選で選出します。なお、実際の聴講は、本年度の後期(10月12日)から予定しています。また、教育委員会では聴講修了者に修了証を発行します。

問合せ先  
役場社会教育課  
☎934・0030

うと行われたものです。

同研究会は、昭和55年2月8日に本町で発足しました。当時、公害などの環境汚染による健康被害が問題となっていました。また、農業や化学肥料の近代農法全盛の時代で、昔から受け継がれてきた有機農法が軽視されていました。

このため、「有機農業」を見なおそうと、県内の農家など有志が集まりました。また、



本町では全国で唯一「健康課」を設置していたこともあり、同研究会の事務局が同課に設置されました。そして、同研究会はこれまでに減農薬運動や合鴨農法など、全国はるか世界までも大きな影響力を与える、技術や運動などの活動を行なっています。

シンポジウムは、基調報告とパネルディスカッションが行われました。午前に行われた基調報告では、同研究会の3人の会員が、「私が目指している農業とは」と題して、百姓から見た農業の現状報告を行いました。午後からは、コーディネーターに西日本新聞社の佐藤弘氏を迎え、前町長の吉松昭幸氏ほか4人のパネルディスカッションによる「パネルディスカッション」だれのための、なんのための有機農業か」が行われました。会場は満席となり、参加者全員で同研究会の25周年を祝いました。